



## 2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年2月10日

上場会社名 株式会社木曾路 上場取引所 東 名  
コード番号 8160 URL <https://www.kisoji.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中川 晃成  
問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 奥野 慎太郎 TEL 052-872-1811  
配当支払開始予定日 -  
決算補足説明資料作成の有無：無  
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年3月期第3四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	39,954	3.2	1,414	55.1	1,452	52.4	895	77.4
2025年3月期第3四半期	38,697	△0.2	911	△16.3	952	△15.6	504	△36.0

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 1,389百万円 (150.1%) 2025年3月期第3四半期 555百万円 (△43.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	31.80	-
2025年3月期第3四半期	17.93	-

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	47,738	30,378	63.6
2025年3月期	46,781	30,341	64.9

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 30,378百万円 2025年3月期 30,341百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	-	12.00	-	33.00	45.00
2026年3月期	-	15.00	-		
2026年3月期（予想）				15.00	30.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2. 2025年3月期期末配当金の内訳 普通配当 18円00銭 特別配当 15円00銭

### 3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	54,000	1.4	3,000	10.8	3,030	10.0	2,040	△35.6	72.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期3Q	28,543,889株	2025年3月期	28,543,889株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	384,040株	2025年3月期	383,649株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期3Q	28,160,060株	2025年3月期3Q	28,160,521株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、〔添付資料〕3ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(セグメント情報等の注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(四半期連結損益計算書に関する注記) .....	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	7

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間（2025年4月1日～2025年12月31日）におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかな回復基調が続きました。しかしながら、地政学リスクの高まりや為替・金利の変動など、依然として先行きに不透明感が残る状況となりました。

外食産業におきましては、人流の回復や賃上げ効果を背景に個人消費の底堅さが見られる一方、米をはじめとする原材料価格やエネルギー価格の高騰、人件費の上昇が継続しており、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような環境の中、当社グループは年間最大の需要期である年末の繁忙期に向け、収益の最大化に注力いたしました。主力業態であるしゃぶしゃぶ・日本料理の「木曾路」部門において、10月に開催した「しゃぶしゃぶ祭り」に加え、忘年会シーズンに合わせたコースを充実させたほか、有機栽培コーヒーや季節のごはん、デザート等の充実したサイドメニューを推奨販売することで、来店客数及び客単価の向上に努めてまいりました。また、業態の強みである「ハレの日」需要を深掘りすべく、社内マイスターによる「お食い初め」「七五三」「長寿のお祝い」等の慶事・祝事に対する上質なおもてなしを提供し、顧客満足度の向上と他社との差別化を継続いたしました。

一方、第2の事業の柱である焼肉部門におきましては、木曾路部門で培った顧客管理手法の活用などにより、特選和牛の「大將軍」業態では個室空間ときめ細やかな接客を徹底し、記念日等の高単価需要の獲得など、さらなる営業力の強化と収益基盤の確立に取り組んでまいりました。

費用面におきましては、購買・調達の見直しを推進し、在庫及びロス管理の徹底による原価低減を図るとともに、客数予測に基づいたシフト管理の徹底により人件費を適正にコントロールいたしました。さらに、高騰する光熱費については使用量削減の取り組みを進め、消耗品等の経費見直しを徹底するなど、経費圧縮に努めてまいりました。

店舗展開、改築・改装につきましては、3店舗の出店、13店舗の改装及び1店舗の退店を実施し、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は192店舗となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、399億54百万円（前年同期比 3.2%増加）、営業利益は14億14百万円（同 55.1%増加）、経常利益は14億52百万円（同 52.4%増加）、親会社株主に帰属する四半期純利益は8億95百万円（同 77.4%増加）となりました。

### (2) 当四半期の財政状態の概況

資産、負債及び純資産の状況

	前連結会計年度 (2025年3月31日現在)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日現在)	増 減
総資産（百万円）	46,781	47,738	956
純資産（百万円）	30,341	30,378	37
自己資本比率（%）	64.9	63.6	—
1株当たり純資産（円）	1,077.45	1,078.78	1.33

当第3四半期連結会計期間末の総資産は477億38百万円（前連結会計年度末比 9億56百万円の増加）となりました。この主な内訳は、流動資産が202億32百万円、有形固定資産が167億26百万円、無形固定資産が17億70百万円、投資その他の資産が90億8百万円であります。前連結会計年度末からの主な増加要因は、季節的な事由により売掛金が9億90百万円、有形固定資産が4億76百万円増加する一方、現金及び預金が2億円減少したことによるものであります。

一方、負債合計は173億60百万円（同 9億19百万円の増加）となりました。この主な内訳は、流動負債が142億40百万円、固定負債が31億19百万円であります。前連結会計年度末からの主な増加要因は、季節的な事由により買掛金が10億51百万円増加する一方、未払法人税等が3億59百万円減少したことによるものであります。また、当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は303億78百万円（同 37百万円の増加）となりました。この主な内訳は資本金が126億48百万円、資本剰余金が124億67百万円、利益剰余金が50億73百万円であります。前連結会計年度末からの主な増加要因は、その他有価証券評価差額金が4億95百万円増加する一方、利益剰余金が4億56百万円減少したことによるものであります。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間末の自己資本比率は63.6%（前連結会計年度末は64.9%）、1株当たり純資産額は1,078.78円（同 1,077.45円）となりました。

(部門別売上高)

部門	事業内容	前第3四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)	前年同期比 増減率
木曾路 部門	しゃぶしゃぶ・日本料理の「木曾路」	30,448百万円	31,606百万円	3.8%
焼肉部門	特選和牛の「大將軍」 国産牛焼肉の「くいどん」	5,921	5,925	0.1%
その他 部門	居酒屋	903	978	8.3%
	和食 旬彩処の「鈴のれん」	488	536	9.9%
	その他	1,205	1,168	△3.1%
調整額		△271	△261	—
合 計		38,697	39,954	3.2%

(注) 部門別売上高は連結取引高の相殺消去前の数値であります。

**木曾路部門**

しゃぶしゃぶ・日本料理「木曾路」業態は、11店舗の改装を行い、当第3四半期連結会計期間末店舗数は126店舗であります。営業面では、10月に開催した「しゃぶしゃぶ祭り」に加え、忘年会シーズンに合わせたコースを充実させたほか、有機栽培コーヒーや季節のごはん、デザート等の充実したサイドメニューを推奨販売することで、来店客数及び客単価の向上に努めてまいりました。また、業態の強みである「ハレの日」需要を深掘りすべく、社内マイスターによる「お食い初め」「七五三」「長寿のお祝い」等の慶事・祝事に対する上質なおもてなしを提供し、顧客満足度の向上と他社との差別化を継続いたしました。

その結果、売上高は316億6百万円（前年同期比 3.8%増加）となりました。

**焼肉部門**

特選和牛「大將軍」及び国産牛焼肉「くいどん」業態におきましては、1店舗の新規出店及び1店舗の退店を行い、当第3四半期連結会計期間末店舗数は47店舗となりました。営業面では、木曾路部門で培った顧客管理手法の活用などにより、特選和牛「大將軍」では個室空間ときめ細やかな接客を徹底し、記念日等の高単価需要の獲得など、さらなる営業力の強化と収益基盤の確立に取り組んでまいりました。

その結果、売上高は59億25百万円（同 0.1%増加）となりました。

**その他部門**

居酒屋（「とりかく」、「大穴」）業態は、2店舗の出店を行い、当第3四半期連結会計期間末店舗数は10店舗となりました。宴会需要の回復や客単価が増加したことなどにより、売上高は9億78百万円（同 8.3%増加）となりました。

和食旬彩処「鈴のれん」業態は、2店舗の改装を行い、当第3四半期連結会計期間末店舗数は5店舗であります。屋号を和食・しゃぶしゃぶ「鈴のれん」より和食旬彩処「鈴のれん」に変更し本格的な和食やしゃぶしゃぶを日常の中で気軽かつお値打ちに楽しめるといった強みを活かし、集客力の強化に努めたことなどにより、売上高は5億36百万円（同 9.9%増加）となりました。

その他業態は、食肉加工卸売、からあげ専門店「からしげ」、物販（しぐれ煮、胡麻だれ類）及び不動産賃貸等があります。売上高は11億68百万円（同 3.1%減少）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年5月9日に公表いたしました通期の連結業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,389	13,189
売掛金	2,023	3,013
有価証券	—	100
商品及び製品	4	35
原材料及び貯蔵品	3,564	3,326
その他	520	569
貸倒引当金	△0	△1
流動資産合計	19,503	20,232
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	7,964	8,503
土地	6,096	6,027
その他 (純額)	2,190	2,195
有形固定資産合計	16,250	16,726
無形固定資産		
のれん	1,114	1,007
その他	887	763
無形固定資産合計	2,001	1,770
投資その他の資産		
差入保証金	4,014	3,965
その他	5,043	5,074
貸倒引当金	△30	△30
投資その他の資産合計	9,026	9,008
固定資産合計	27,278	27,505
資産合計	46,781	47,738

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,132	2,184
短期借入金	7,000	7,000
1年内返済予定の長期借入金	293	175
未払法人税等	467	108
賞与引当金	625	264
その他	3,693	4,508
流動負債合計	13,212	14,240
固定負債		
長期借入金	185	84
退職給付に係る負債	1,256	1,300
資産除去債務	1,319	1,341
その他	466	393
固定負債合計	3,227	3,119
負債合計	16,440	17,360
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	12,648	12,648
資本剰余金	12,467	12,467
利益剰余金	5,529	5,073
自己株式	△935	△936
株主資本合計	29,709	29,252
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	621	1,117
退職給付に係る調整累計額	9	7
その他の包括利益累計額合計	631	1,125
純資産合計	30,341	30,378
負債純資産合計	46,781	47,738

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	38,697	39,954
売上原価	12,534	12,827
売上総利益	26,162	27,127
販売費及び一般管理費	25,250	25,712
営業利益	911	1,414
営業外収益		
受取利息	16	14
受取配当金	44	60
その他	18	28
営業外収益合計	79	103
営業外費用		
支払利息	25	45
賃貸借契約解約損	2	0
その他	10	20
営業外費用合計	39	65
経常利益	952	1,452
特別利益		
固定資産売却益	0	176
特別利益合計	0	176
特別損失		
固定資産除売却損	126	106
特別損失合計	126	106
税金等調整前四半期純利益	826	1,522
法人税、住民税及び事業税	132	276
法人税等調整額	189	350
法人税等合計	321	627
四半期純利益	504	895
親会社株主に帰属する四半期純利益	504	895

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	504	895
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	49	495
退職給付に係る調整額	0	△1
その他の包括利益合計	50	494
四半期包括利益	555	1,389
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	555	1,389
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

当社グループは、料理・飲食物の加工調理提供を主要業務とする飲食店のほか付随的に外販・不動産賃貸等を営んでおりますが、飲食店としての事業がほとんどを占めており実質的に単一セグメントのため、記載を省略しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

当社グループは、料理・飲食物の加工調理提供を主要業務とする飲食店のほか付随的に外販・不動産賃貸等を営んでおりますが、飲食店としての事業がほとんどを占めており実質的に単一セグメントのため、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書に関する注記)

当社グループの売上高は、通常の営業形態として、主力商品である「しゃぶしゃぶ」の需要が年末年始を含めた冬季に高まるため、通常、第3及び第4四半期連結会計期間の売上高は第1及び第2四半期連結会計期間の売上高と比べ高くなる傾向があり、営業利益も第3及び第4四半期連結会計期間に片寄る傾向があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	1,110百万円	1,099百万円
のれんの償却額	107	107